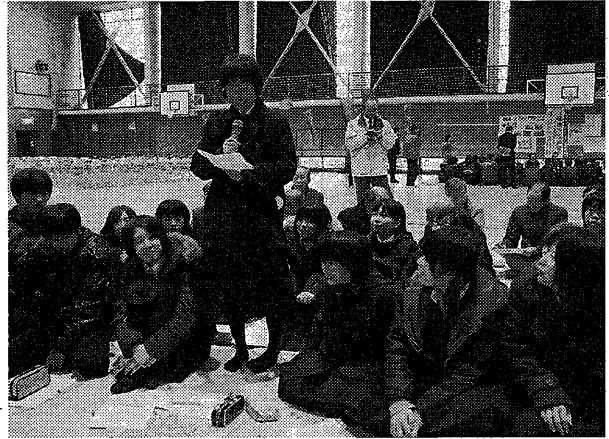


除雪や冬の安全などについて意見を発表
する中学生 =尾花沢市・尾花沢中



克雪に中学生の知恵

尾花沢・宮沢中生がシンポで意見

「第11回尾花沢雪対策シンポジウムin尾花沢中・宮沢中」が25日、同市の尾花沢中で開かれ、除雪や冬の安全対策などをテーマに中学生と関係者による意見交換会などが行われた。国交省の補助事業の採択を受け、尾花沢市民雪研究会(星川保松会長)が開催した。昨年までは一般市民向けだったが、次代を担う中学生にも克雪などについて考えてもらおうと、今年は両校の2年生計90人が対象。市民らも加わり計約180人が参加した。

最初に国交省国土政策局 地方振興課の高橋弘典課長補佐が「豪雪地帯の現状と対策」と題し基調講演。同研究会の二藤部久三さんが「高齢者除雪の恐怖」などの現場報告を行った。意見交換会では「除雪・震災ボランティア活動に思うこと」「歩行者から見た冬の安全対策とは」などをテーマに、関係者と中学生がディスカッション。このうち「高齢化社会に向けた除雪対策とは」がテーマのグループでは、中学生から「除雪ボランティア団体をつくる」「地域住民が除雪を手助けするためにも、お年寄りや若い人が交流する機会を増やしてはどうか」「こみ焼却施設の予熱を利用して融雪できないか」などの意見や提案が出た。席上、同研究会が募集した「雪の事故をなくそう！」標語入賞者の表彰や、両中の生徒による「安全宣言」も行われた。